

戦争と治安管理に反対するシンポジウムⅧ

プレ・シンポ

「対テロ戦争とは何か？」

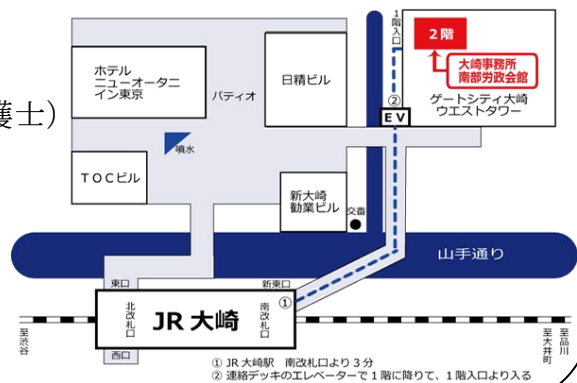
■日時：2月1日（月）18時～21時

■場所：南部労政会館

■提起：永嶋靖久さん（弁護士）

■交通：JR 大崎駅南改札口
新東口 下車3分

■資料代：500円



11. 15パリ同時襲撃事件に対し、オランド仏首相は、自らの空爆を棚にあげて“これは戦争だ”と叫び、気候温暖化反対デモ参加者200名余を逮捕するなど戒厳態勢を敷いている。また安倍政権は、辺野古新基地建設強行など戦争法実働化に走る一方で、治安立法など“国内安全保障体制”確立を目指している。警察盗聴拡大に次いで共謀罪国会上程のアドバルーンを挙げ、国家緊急権（明文改憲）を狙うことを公言している。惨事を自ら仕掛け便乗する「ショックドクトリン」である。

9.11事件を奇貨とした米・ブッシュ政権は、大量破壊兵器所有の大嘘で世界中

を騙してアフガン・イラク戦争を仕掛け、フセインを倒したが、IS台頭など、アラブに戦争と混乱、大量難民を引き起こしている。

支配はなぜ「戦争」したがるのか？現在の戦争は、どのような形で仕掛けられているのか？それは治安立法や差別・排外、生活破壊とどう関係するのか？戦争に反対するためには、どのような闘いが必要なのか？いま私たちは改めて問われている。

研究者・弁護士・各領域の活動家が集まって3月13日に開く戦争と治安管理シンポジウムⅧのプレ・シンポとして活発な意見交換を行います。是非ともご参加ください。

対「テロ」戦争・「戦争する国」反対 共謀罪も盗聴法も秘密法もいらない！

戦争と治安管理に反対するシンポジウムⅧ実行委員会

東京都港区新橋 2-8-16 石田ビル 5F 救援連絡センター 気付 Tel : 03-3591-1301